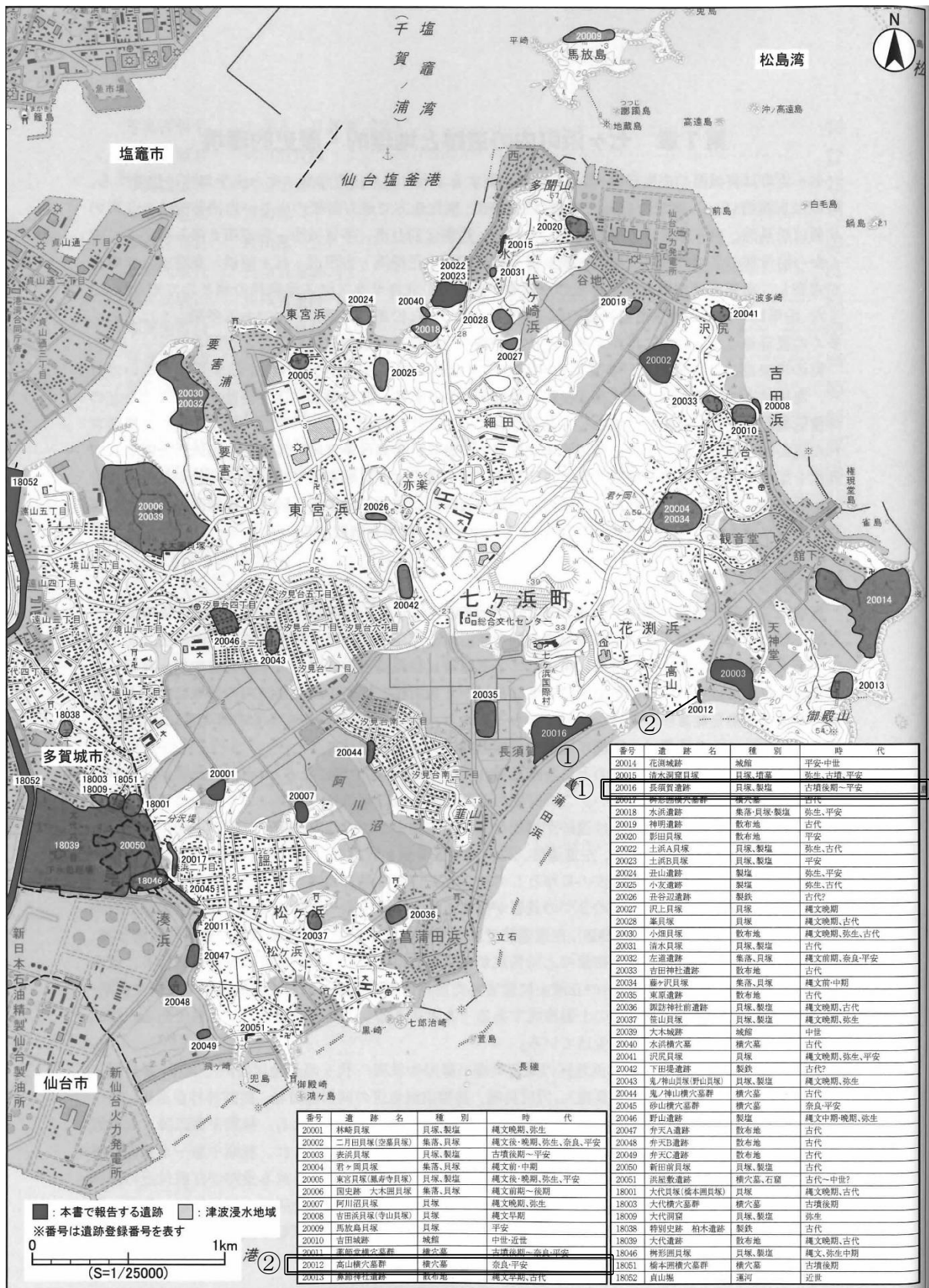


【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 A-4-1 事業名 埋蔵文化財発掘調査事業（七ヶ浜町全域）
事業費 総額 2 千円 （内訳：需用費 2 千円）
事業期間 平成 2 4 年度～令和 2 年度
事業目的・事業地区 遺跡保存と復興事業を両立する計画を策定するため、また、両立のために協議・調整を重ねた上で、やむを得ず遺跡との関わりが生じた計画について、その遺跡の内容を確認するため、事前に分布・試掘調査を実施する（町内遺跡の位置図は別紙のとおり）。
事業結果 町内試掘調査予定地における事業者との遺跡保存の協議・調整を実施した。また、東日本大震災による県道改良事業や防潮堤改修等に先立ち、町教委で実施した長須賀遺跡・高山横穴墓群等の確認調査について、指導・助言及び協力した。 <平成 2 4 年度> ・町内試掘調査予定地における事業者との遺跡保存の協議・調整、長須賀遺跡・高山横穴墓群の確認調査指導・助言、協力等 0 千円 <平成 2 5 年度～令和 2 年度> ・町内試掘調査予定地における事業者との遺跡保存の協議・調整 2 千円
事業の実績に関する評価 ①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 ・協議・調整等の成果は、平成 2 7 年度・令和 2 年度に刊行された七ヶ浜町文化財調査報告書第 1 1・1 3 集等で報告された。事業を適正に執行し、完了したと判断される。 ②コストに関する調査・分析・評価 ・遺跡保存と復興事業を両立するために協議・調整した結果、試掘調査を実施不要とすることで、事業費を大幅に削減することができた。 ③事業手法に関する調査・分析・評価 ・埋蔵文化財発掘調査事業は、以下のとおり、予定より早期に事業を進めることができた。 <想定した事業期間> 事前協議・機材準備・調査着手・調査終了 平成 2 4 年 5 月～平成 3 3 年 3 月 <実際に事業に有した事業期間> 事前協議・調整等 平成 2 4 年 5 月～令和 3 年 3 月
事業担当部局 教育庁文化財課 電話番号：022-211-3685



番号	遺跡名	種別	時代
20014	花洲城跡	城館	平安・中世
20015	清水洞窟貝塚	貝塚・墳墓	弥生・古墳・平安
20016	長須賀遺跡	貝塚・製塩	古墳後期～平安
20017	御影山遺跡	墳墓	古代
20018	水浜遺跡	集落・貝塚・製塩	弥生・平安
20019	神明遺跡	散布地	古代
20020	影田貝塚	散布地	平安
20022	土浜A貝塚	貝塚・製塩	弥生・古代
20023	土浜B貝塚	貝塚・製塩	平安
20024	井山遺跡	製塩	弥生・平安
20025	小友遺跡	製塩	弥生・古代
20026	谷谷遺跡	製鉄	古代?
20027	沢上貝塚	貝塚	縄文晩期
20028	釜貝塚	貝塚	縄文晩期、古代
20030	小畑貝塚	散布地	縄文晩期、弥生、古代
20031	清水貝塚	貝塚・製塩	古代
20032	左道遺跡	集落・貝塚	縄文前期、弥生・平安
20033	吉田神社遺跡	散布地	古代
20034	藤ヶ沢貝塚	集落・貝塚	縄文前・中期
20035	東原遺跡	散布地	古代
20036	諏訪神社前遺跡	貝塚・製塩	縄文晩期、古代
20037	笠山貝塚	貝塚・製塩	縄文晩期、弥生
20039	大木城跡	城館	中世
20040	水浜横穴墓	横穴墓	古代
20041	沢尻貝塚	貝塚	縄文晩期、弥生、平安
20042	下田遺跡	製鉄	古代?
20043	鬼ノ神山貝塚(野山貝塚)	貝塚・製塩	縄文晩期、弥生
20044	鬼ノ神山横穴墓群	横穴墓	古代
20045	砂山横穴墓群	横穴墓	奈良・平安
20046	野山遺跡	製塩	縄文中期・晩期、弥生
20047	弁天A遺跡	散布地	古代
20048	弁天B遺跡	散布地	古代
20049	弁天C遺跡	散布地	古代
20050	新田前貝塚	貝塚・製塩	古代
20051	浜屋敷遺跡	横穴墓、石窟	古代～中世?
18001	大代貝塚(橋本貝塚)	貝塚	縄文晩期、古代
18003	大代横穴墓群	横穴墓	古墳後期
18009	大代洞窟	貝塚・製塩	弥生
18038	特別史跡 柏木遺跡	製鉄	古代
18039	大代遺跡	散布地	縄文晩期、古代
18046	柳形貝塚	貝塚・製塩	縄文、弥生・中期
18061	橋本洞窟墓群	横穴墓	古墳後期
18062	貝山塚	溝	近世

番号	遺跡名	種別	時代
20001	林崎貝塚	貝塚・製塩	縄文晩期、弥生
20002	二月田貝塚(空墓貝塚)	集落・貝塚	縄文後・晩期、弥生、奈良・平安
20003	表浜貝塚	貝塚・製塩	古墳後期～平安
20004	君ヶ岡貝塚	集落・貝塚	縄文前・中期
20005	東河貝塚(嵐崎寺貝塚)	貝塚・製塩	縄文後・晩期、弥生、平安
20006	固史跡 大木貝塚	集落・貝塚	縄文前期～後期
20007	阿川沼貝塚	貝塚	縄文晩期、弥生
20008	吉田前貝塚(寺山貝塚)	貝塚	縄文早期
20009	馬放島貝塚	貝塚	平安
20010	吉田城跡	城館	中世・近世
20011	東郷平塚之墓群	墳墓	古墳後期～奈良・平安
20012	高山横穴墓群	横穴墓	奈良・平安
20013	養神神社遺跡	散布地	縄文前期、古代

第1図 七ヶ浜町内および周辺の遺跡

七ヶ浜町 確認調査の指導・助言，主要協力遺跡 (①・②)  
 (『七ヶ浜町文化財調査報告書第13集』より作成)

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 D-1-1 事業名 道路事業（市街地相互の接続道路）（主）塩釜七ヶ浜多賀城線（菖蒲田）	
総額 1,059,067 千円 （内訳：調査測量設計費 62,531 千円，用地補償費 264,739 千円，工事費 731,797 千円）	
事業期間 平成24年度～平成29年度	
事業目的・事業地区 七ヶ浜町では「菖蒲田浜・汐見台南」地区において、津波防災公園緑地の整備に合わせて、防災林の設置や避難路などを整備することとしている。 （七ヶ浜町震災復興計画 P23 復興まちづくりプラン 02 「菖蒲田浜・汐見台南」） 本路線は、菖蒲田浜地区における防災集団移転と土地区画整理事業地等を接続するものであり、津波により壊滅的な被害を受けた市街地から各集落を接続する道路を整備し、被災地間の交通円滑化を図ることで快適な生活環境確保と地域活力の創造に資するものである。	
事業結果 整備前：L=2,000m, W= 5.5(9.0) m 整備後：L=2,000m, W= 6.0(11.5) m <平成24年度> ・調査測量設計 14,930 千円 <平成25年度> ・調査測量設計 26,563 千円・用地補償 60,053 千円 <平成26年度> ・調査測量設計 9,598 千円・用地補償 51,769 千円・工事 241,960 千円 <平成27年度> ・調査測量設計 9,582 千円・用地補償 142,050 千円・工事 218,892 千円 <平成28年度> ・調査測量設計 1,858 千円・工事 195,664 千円 <平成29年度> ・用地補償 10,867 千円・工事 75,281 千円 ・平成29年7月14日より供用開始	
 【整備前】	 【整備後】

## 事業の実績に関する評価

### ①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

- ・東日本大震災による津波により壊滅的な被害を受けた花渚浜笹山地区の防災集団移転地や菖蒲田浜地区の被災市街地復興土地区画整理地を接続する十分な車道幅員や歩道を有する道路を整備し、被災地間の交通円滑化が図られ、快適な生活環境確保と地域活力の創造に資するものであると評価する。

### ②コストに関する調査・分析・評価

- ・事業費の設計・積算は宮城県の土木工事標準積算基準等により実施し、宮城県建設工事執行規則等に基づき入札し業者が選定されている。また、事業内で発生した残土については事業内で流用土として使用するなどコスト縮減に努めることで、資材単価や労務単価が上昇する厳しい状況下にあっても、経済性が確保された事業執行となっていることから適正であると評価する。

### ③事業手法に関する調査・分析・評価

#### <想定した事業期間>

- ・調査測量設計 平成24年4月～平成24年9月
- ・用地買収 平成24年9月～平成25年3月
- ・工事 平成25年4月～平成28年3月

#### <実際に事業に有した事業期間>

- ・調査測量設計 平成24年7月～平成28年7月
- ・用地買収 平成25年4月～平成29年4月
- ・工事 平成26年8月～平成30年3月
- ・調査測量設計および用地買収については、関係機関や地権者との協議に不測の日数を要し遅れが生じた。
- ・工事については、用地買収の遅れが見られるなか、用地取得箇所から着手することや支障物件の移設時期の調整を行うなど工程短縮に努めることで、工事期間の短縮を図った。
- ・用地買収などの遅れにより事業完了に遅れが生じる可能性があったが、その後の工事などで適切なフォローアップを行い、事業完了できていることから事業手法は適正であると評価する。

## 事業担当部局

宮城県土木部道路課道路建設班 022-211-3163

## 【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-8-1 (※効果促進事業(一括配分)についても主な事業ごとに様式を作成する。) 事業名 宮城県水産技術総合センター種苗生産施設復旧整備事業	
事業費 総額 4,203,115 千円 (国費:3,152,335 千円)	
事業期間 平成24年～平成27年	
事業目的・事業地区 沿岸漁業において重要な役割を担っているアワビ等の放流事業の復旧・復興を支援するため、七ヶ浜町松ヶ浜に種苗生産施設を復旧整備したもの。(事業地区:七ヶ浜町)	
事業結果 種苗生産施設を復旧整備し、種苗生産・放流による沿岸漁業の復興を支援した。  ・所在地:宮城県宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜字浜屋敷142番1 ・敷地面積 10,000 m <sup>2</sup> ・管理棟 408 m <sup>2</sup> ・アワビ飼育棟及び野外水槽 1,883 m <sup>2</sup> ・ヒラメ中間育成水槽 803 m <sup>2</sup> ・付帯施設等(海水取水施設,機械棟等) 平成27年10月より供用開始	
 宮城県水産技術総合センター種苗生産施設	 旧種苗生産施設被災状況
事業の実績に関する評価 ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 ・アワビについては年間約100万個の種苗が生産されている。震災前と同じ量が生産できていることから事業が適正な執行がなされていると判断される。 ・ヒラメ、ホシガレイ及びアカガイについても種苗生産・放流を行っており、年々放流魚種の漁獲量も増えており沿岸漁業の復興に寄与したものと考えられる。 ・試験研究等も再開されており種苗生産の強化が図られている。	

②コストに関する調査・分析・評価

- ・入札により業務委託契約を締結しており、事業費は適切なものとする。

③事業手法に関する調査・分析・評価

＜想定した事業期間＞

建築設計	平成24年4月～平成24年10月
工事監理	平成24年10月～平成26年3月
建築工事	平成24年10月～平成26年3月
電気・機械工事	平成24年12月～平成26年3月
工事完成	平成26年3月

＜実際に事業に有した事業期間＞

建築設計	平成25年1月～10月
工事監理	平成26年3月～平成27年10月
建築工事	平成26年3月～平成27年8月
電気・機械工事	平成26年3月～平成27年10月
工事完成	平成27年10月

- ・平成25年度内の施設完成を予定していたが、海水の取水方法として当初計画していた取水井戸がボーリング調査の結果から不可能であることが判明したため、取水方法の変更が生じたため工事の進捗が遅れたもの。

事業担当部局

水産林政部水産業基盤整備課 電話番号：022-211-2944

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 C-1-2 事業名 農山漁村地域復興基盤総合整備事業（復興整備実施計画）
事業費 総額 23,769千円
事業期間 平成24年度～平成27年度
事業目的・事業地区 セケ浜町内のセケ浜地区において、津波により著しく被災（浸水）した農山漁村地域の復興を目的として農地等の生産基盤整備（区画整理 A=134ha）事業の実施計画策定を行う。震災により、地区内の農家の多くが被災し、営農者の死亡や地区外への移転、また、生活再建等での資金需要に伴い、営農の再開が困難な農業者も多い。 このような状況において、農地の整備により、農地の面的な集約、経営の大規模化・高付加価値化を行い、被災農家が参加する集落営農から、将来的に法人化を目指すなど、収益性の高い農業経営の実現を目指すこととしている。これらにより、被災農家の生活再建をはじめ、新たな雇用の創出を目指し、地域の農業振興、農村コミュニティの再生など、町の復興計画の実現に資するものである。  地区名 セケ浜地区 面積 A=134.0ha  セケ浜町震災復興計画 記載箇所：P.16 2. 農地の回復と農業の再生概 要：大規模ほ場整備事業の推進
事業結果 地区名：セケ浜（計画設計 134.0ha） ・基礎調査において土地利用状況について把握し、基本計画に未整理の土地、地区の高齢化等に関する対策を盛り込むとともに、事業計画を策定することにより、復旧・復興へ向けた道筋を明確にすることができ、迅速な農地整備が可能となった。 <平成24年度～平成27年度> ・基礎調査・基本計画作成 一式 18,728千円 <平成24年度～平成25年度> ・事業計画書作成 一式 5,040千円
事業の実績に関する評価 ①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 ・基礎調査により、現況の課題（未整理の土地、地区の高齢化等）を整理し、大区画化による農地の面的な集約、経営の大規模化・高付加価値化、収益性の高い農業経営の実現を目指し、基本計画を策定した。 ・事業確定後も基礎調査の実施により、地盤沈下による地下水や用水源への塩水の流入状況を把握し、適切な営農障害対策の推進を図ることが出来た。

②コストに関する調査・分析・評価

・事業費の設計・積算は農林水産省土地改良工事積算基準等により実施し、宮城県財務規則等に基づき入札を行い、公正な競争・透明性の確保に努め、適正な事業執行がなされていると判断される。

③事業手法に関する調査・分析・評価

・七ヶ浜地区における農山漁村地域復興基盤総合整備事業（復興整備実施計画）は、以下のとおり、概ね予定どおり事業を進めることができた

<想定した事業期間>

基礎調査・基本計画作成	一式	平成25年2月～平成28年3月
事業計画書作成	一式	平成25年2月～平成25年7月
（「七ヶ浜」事業計画確定		平成25年12月）

<実際に事業に有した事業期間>

基礎調査・基本計画作成	一式	平成25年3月～平成28年3月
事業計画書作成	一式	平成25年3月～平成25年9月
（「七ヶ浜」事業計画確定		平成25年12月）

事業担当部局

農政部農村振興課 電話番号：022—211—2862



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	C-1-3
事業名	農山漁村地域復興基盤総合整備事業（復興基盤総合整備事業）七ヶ浜地区
事業費 総額	3,262,321 千円（うち国費 2,446,740 千円） （内訳：工事費 2,947,444 千円、測量試験費 171,602 千円、用地買収補償費 22,519 千円、換地費 120,756 千円）
事業期間	平成 25 年度～令和 4 年度
事業目的・事業地区	七ヶ浜町内の七ヶ浜地区において、東日本大震災により被災した農山漁村地域の復興を目的として農地等の生産基盤整備（区画整理）及び集落生活環境施設の整備を実施したものの。 （七ヶ浜地区の位置図は図 1 のとおり）
事業結果	<p>七ヶ浜地区は、ほ場の大区画化、道路・用排水路・暗渠排水等の整備を行い、耕地の汎用化、水管理の合理化が図られた。また、農地の利用集積と経営体の育成・支援を一体的に行ったことにより、効率的かつ安定的な農業経営の確立に寄与した。</p> <p>また、土地改良事業の換地制度を活用し、市町が防災集団移転促進事業により買収した宅地元地等の集積・再配置による公共用地の創出と効率的な農地整備を一体的に行い、土地利用の整序化を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区面積 A=142.9ha</li> <li>・ 整地工 A=120.9ha</li> <li>・ 道路工 L=2,389m</li> <li>・ 用水路工 L=11,296m</li> <li>・ 排水路工 L=17,878m</li> <li>・ 暗渠排水工 A=119.4ha</li> <li>・ 客土工 A=25.7ha</li> <li>・ 農業施設等用地整備 A=0.6ha</li> <li>・ 地域農業活動拠点施設整備 倉庫 N=1 棟</li> </ul>
事業の実績に関する評価	<p>① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価</p> <p>・ 七ヶ浜地区で整備した農地の作付面積は 114.8ha、作付率は 95.0%である。作付率が平成 22 年次における宮城県本地利用率 90.6%（農林水産省耕地及び作付面積統計）を上回っていることから、事業が適正に執行及び活用されていると判断される。</p> <p>② コストに関する調査・分析・評価</p> <p>・ 事業費の設計・積算は農林水産省土地改良工事積算基準等により実施し、宮城県財務規則等に基づき入札を行い、公正な競争・透明性の確保に努め、適正な事業執行がなされていると判断される。</p> <p>③ 事業手法に関する調査・分析・評価</p> <p>・ 七ヶ浜地区における農山漁村地域復興基盤総合整備事業は、以下のとおり概ね予定どおり事業を進めることができた。</p>

項目	想定した事業期間	実際に事業に有した事業期間
実施設計発注・完了	平成 25 年 10 月～平成 29 年 8 月	平成 25 年 10 月～平成 29 年 8 月
建設工事発注・完了	平成 26 年 2 月～令和 2 年 3 月	平成 26 年 2 月～令和 4 年 5 月
換地業務発注・完了	平成 25 年 11 月～令和 2 年 11 月	平成 25 年 12 月～令和 2 年 10 月
作付け開始	平成 27 年 4 月～	平成 27 年 4 月～

・ 営農上支障を来たす湧水や軟弱地盤の対策や、工事を実施するにあたる関係機関との調整に時間を要し、工事が長期化したが、令和 4 年度に全ての工事を完了した。

事業担当部局

宮城県農政部農村防災対策室

電話番号：022-211-2703

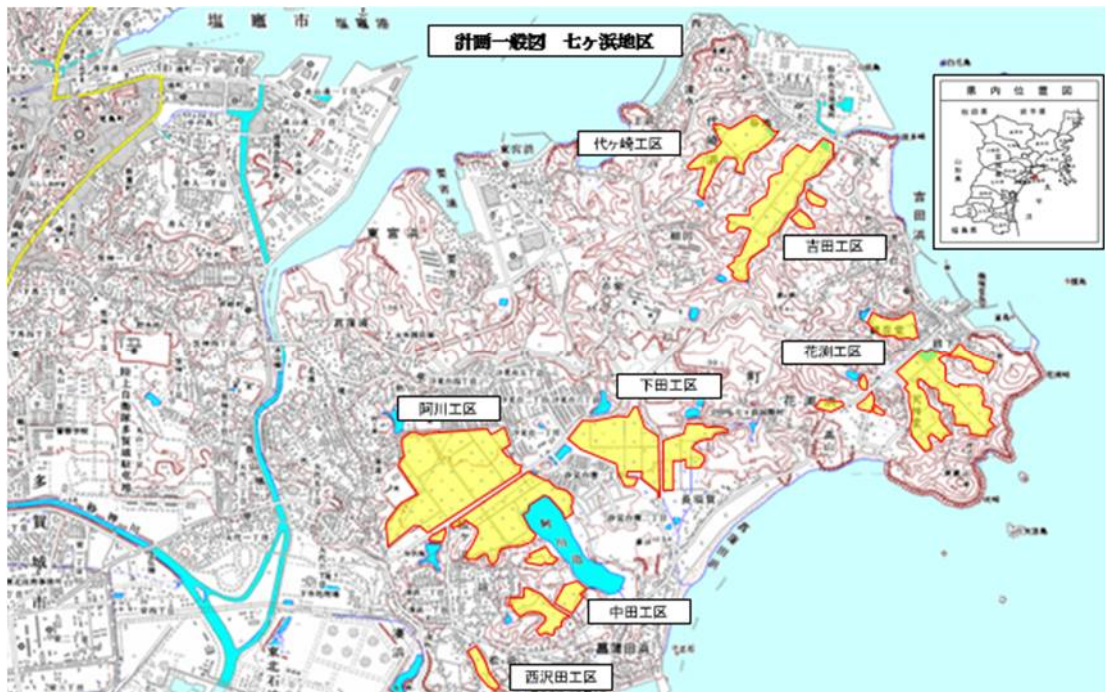


図 1. 位置図



写真 左：着手前（平成 23 年 3 月） 右：完成（平成 28 年 6 月）